

シンポジウムⅡ「生涯学習時代とリベラルアーツ」について

今日、社会で生きてゆく上で「教養」や「リベラル・アーツ」、 「生涯学習」の重要性が増しています。そうした状況と、「社会に役に立たない学部」の象徴として揶揄されることが少なくない「文学部」で学ぶ営みが、関連づけられて論じられることも少なくありません。そのことを念頭に置きつつも、本シンポジウムは、そもそも「文学部」で学ぶこと自体の価値をいかにして見出すことができるのか？に迫りたいと考えています。とりわけ、公立大学の「文学部」という機関で学ぶことの意義を、どのようにして、また、どのようなものとしてとらえることができるのでしょうか？市大文学部を卒業して現在出版業を営む左子氏と、人生の第 2 のステージとして文学研究科で現在学んでいる立花氏のお話からアプローチして探りたいと思います。